

チェック② 非常用持出袋を準備しておきましょう

自身が被災したときは、安全な場所に避難し、避難生活を送ることになります。非常時に持ち出すべきものをあらかじめ確認して非常用持出袋（リュックサック等）に詰めておき、いつでもすぐに持ち出せるようにしておきましょう。

チェック③ 防災行政無線の確認を！

防災行政無線は、災害などの非常時に必要な情報を知るための貴重な手段のひとつです。日頃から確認しておきましょう。

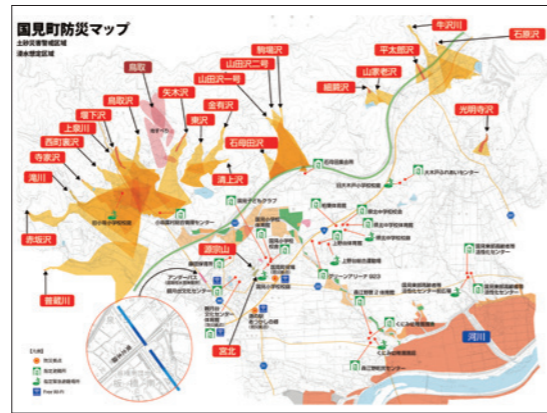
「壊れてしまった」「聞こえにくい」など不具合が発生した場合や、新たに設置を希望する方は住民生活課に問い合わせください。

☎ 住民生活課住民防災係 ☎ 585-2116

チェック① 防災マップを確認しておきましょう

災害時に安全な経路で避難できるように、防災マップで「土砂災害警戒区域」、「浸水想定区域」を確認しておきましょう。

防災マップは、町ホームページでも確認できます。



災害から身を守るために――



一日も早い復旧・復興を願って
西日本豪雨被災地へ義援金



目録を手渡す佐藤副町長（中央）と東海林議長（右）

町は9月14日、西日本豪雨災害の義援金として、町のみなさんから寄せられた浄財73万1,500円を日本赤十字社福島県支部に寄託し、あわせて町議会も11万円を寄せました。佐藤弘利副町長と東海林一樹町議会議長が県支部を訪れ、篠木敏明事務局長に目録を手渡しました。

引き続きご協力をお願いします
北海道胆振東部地震募金

国見町役場と観月台文化センターに募金箱を設置しています。みなさんのご協力をお願いします。

※義援金は町社会福祉協議会で受け入れます。

10月31日まで

※午前8時30分から午後5時まで
※土日・祝日を除く
※領収書は発行しません。

※寄せられた浄財は日本赤十字社に送られます。

北海道胆振東部地震
北海道厚真町に職員派遣



太田町長から派遣命令書を受ける佐藤課長補佐（左）

9月6日に発生した北海道胆振東部地震の被災地を支援するため、町では職員1人を派遣しました。職員派遣式は9月21日に国見町役場で行われ、太田久雄町長から総務課の佐藤智昭課長補佐兼財政係長に派遣命令書が手渡されました。太田町長は「東日本大震災で北海道のみなさんからの支援があったからこそ、今の国見町がある。住民に寄り添った対応をお願いします」と激励。佐藤課長補佐は「震災でお世話になった恩返しができるように頑張ります」と決意を述べました。

派遣先は、最大震度7を記録し、甚大な被害を受けた北海道厚真町。9月25から29日までの5日間にわたり、住宅被害の認定調査業務を支援しました。

災害に備える

平成30年度
国見町各地区防災訓練

7月に西日本を襲った記録的豪雨、そして9月6日に発生した北海道胆振東部地震。

全国的に相次ぐ災害は、各地に甚大な被害をもたらしました。

災害はいつ起こるか分かりません。その脅威から私たちの生命と財産を守るのは、日頃からの「備え」です。

写真

- ①初期消火訓練
- ②非常用持出袋を持参して避難する参加者
- ③婦人会のみなさんによる炊き出し
- ④町消防団の放水訓練
- ⑤AEDの使い方を学ぶ参加者
- ⑥防災講話

9月の防災月間に合わせて、9日、町内6地区で行われました。訓練は、地区ごとに地震や土砂崩れ、洪水などの災害を想定して行われました。防災行政無線で避難勧告が放送されると、町民のみなさんは町内会ごとに一時避難場所に避難し、初期行動の再確認を行いました。その後、各地区中央集会所等に会場を移し、初期消火訓練や応急救助訓練、町赤十字奉仕団や婦人会による炊き出し、町消防団の放水訓練などが行われ、参加者は真剣な表情で訓練に臨みました。参加者は訓練を通して、日頃からの備えの大切さを再認識し、町全体が防災意識を高める一日となりました。

参加者の声

「一人一人が
高い防災意識を
持つことが大切」

藤田・山崎地区実行委員長
八巻 竹治さん

雨が降る中での訓練でしたが、各町内会から多くのみなさんに参加いただきました。最近、全国的に災害が相次いで発生していることもあって、住民のみなさんの関心や意識も高く、有意義な訓練だったと思います。

年に1回の訓練ですが、私たち一人一人が高い防災意識を持って、継続的に取り組んでいくことが大切だと思います。